

News Release

2018年1月5日

当社代表取締役社長 登坂正一による、太陽誘電グループ従業員向けの「2018年 年頭挨拶」の内容を以下の通りお知らせいたします。

市場の変化をチャンスとし、果敢に挑戦していこう

昨年は、自動車の電子化・電動化やIoT(Internet of Things)、AI(人工知能)の進化が急速に進み、太陽誘電グループも次の成長期に差し掛かっていると実感できた1年でした。電子部品の需要拡大は当初の想定よりも前倒しされており、この流れは今後さらに加速していくことでしょう。太陽誘電グループはこの大きな変化を着実に掴み、果敢に挑戦していくことで、さらなる成長を実現させます。

そのためには徹底的に効率化したものづくりが求められます。そこで太陽誘電グループでは、「smart.Eプロジェクト」を推進しています。これは、生産設備やそれに携わる人の見える化を進め、ムダ、ムラ、ムリのないものづくりを実現するための活動です。生産現場のさまざまなデータを蓄積してビッグデータを解析し、異常の早期発見につなげ、問題を未然に防ぐ。ものづくりを行う上での究極の目標であるゼロ・ディフェクトを目指し、グループ一丸となり取り組んでいます。ものづくり以外にも、社内のあらゆる情報を共有し、見える化するためのシステム構築を進めています。将来的にはAIを使い、集められた情報を自動分析することで、皆さんが価値創出により注力できる環境を創り出したいと考えています。

太陽誘電グループの中期的な売上目標は3000億円です。これを達成し、太陽誘電グループのビジョンである「お客様から信頼され、感動を与えるエクセレントカンパニー」を実現して持続的に成長していくためには、徹底的に効率化したものづくりや情報の見える化とその精度、分析・活用力など、まだまだ不足しているものがあります。これらを実現するため、人材育成についてもレベルを上げないといけません。ものごとを合理的に捉え、変化へ柔軟に対応できる人材の育成を体系的に行っていく必要があります。

市場の変化は激しく、スピードも速いですが、それだけチャンスもあります。新しいことへ絶えず挑戦する風土を育てていくことで、私たち一人ひとり、そして太陽誘電グループも次のステージを目指せるでしょう。次世代の太陽誘電グループを皆さん一丸となって築いていきましょう。